

第62代理事長 立石賀也

## 基本理念

己が発する言動に責任を持ち成長し続ける。変わらぬ責任の為に。

スローガン

# 誠

## 基本方針

1. プライド 強い千葉青年会議所
2. 地域が育てる青少年
3. 地域コミュニティの必要性の再認識
4. 「ひと」として誇れる人財の育成
5. 地域交流ネットワークと感謝
6. 自己研鑽からなる組織強化

所 信

## ■ はじめに

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、日本の青年会議所運動が始まり1950年青年会議所運動の行動綱領として「個人の修練(トレーニング)、社会への奉仕(サービス)、世界との友情(フレンドシップ)」の三信条が採択され、様々な運動を展開して参りました。そして、1960年9月に千葉青年会議所が設立され、一昨年の2019年、千葉青年会議所は60周年という大きな節目を迎え、地域に根差す青年会議所運動を通じて、今もなお地域経済や社会に貢献する人財を輩出し続けています。諸先輩方の汗と涙の61年間という膨大な時間の中には、様々な時代の転換期がありました。その都度様々な変革をし、更なる高みへと運動を推し進めてくださったおかげで、今もなお強い発信力を持つ「千葉青年会議所」があります。これからも強い「千葉青年会議所」であるために、時代の変化を的確に捉え、メンバー一人一人が公平に活動しながら、「ひと」と「ひと」の協力が織りなす「力」を再認識し、自己満足ではなく地域に本当に必要とされている事を実現できる団体であり続けるべきと考えます。

また、時代に沿った活動方法の変化を恐れるのではなく、団体としての成長として捉え、「先」を見て「今」を大事にできる「人財」を創造し、自分自身及び青年会議所運動にプライド・責任・信念を持ち、社会から価値ある団体であると改めて認識して頂き、我々が本気で自分自身に向き合うことが、明るい豊かな社会の実現の最良の道だと考えます。

## ■ プライド 強い千葉青年会議所

近年、全国的にも青年会議所の会員数は減少しており、千葉青年会議所も大幅な減少はないものの、緩やかな減少傾向であります。会員数の減少は、団体としての発信力を弱め、メンバーの活動幅も弱めるという負の連鎖が起きはじめ、地域等に魅力ある運動の維持が難しくなることが懸念されます。

これからも団体として魅力ある発信を続けていくためにメンバー一人一人が青年会議所にプライドを持って活動し、他人事にならず、人のために行動をしていくことが改めて必要であります。そして、我々が所属する千葉青年会議所で運動することに誇りを持ち、自分の大切な身近な人や地域に影響を与えていくことで、まだ見ぬメンバーに青年会議所運動に触れて頂く機会が増え、一人でも多くの仲間に青年会議所運動の魅力を伝えることが会員拡大に繋がります。

## ■ 地域が育てる青少年

核家族化が進み、共働きが当たり前になった昨今、人間関係の希薄化で地域社会のコミュニティも失われつつあり、子供達の心の置所が少なくなっています。子供達は未来を託す地域の宝です。我々大人世代は将来子供たちが地域社会に貢献し、活躍できる大人へと成長するよう、相手を思いやる気持ち、感謝の心、自分を大切にするといった生きる力を身に付けられるように導く責務があります。子どもの心が成長する過程で最も基本となるのは親と子の関係であり、家庭での愛情と教育です。一方で、子供の社会性を身に付け、人やものを大切にすることを育むためには地域とのかわりも極めて重要です。私達大人世代も、地域間での人同士の関りを軽視していたことも事実であり、率先して地域コミュニティで活躍する親をはじめとした大人の背中を子供に見せることで、良い意味でそれが当たり前だと思い、子供たちは育ちます。その当たり前の繰り返し、「ひと」が「ひと」を育てると考えます。「ひと」と「ひと」のコミュニティが、心豊かで健全な青少年の育成の一助となります。

## ■ 地域コミュニティの必要性の再認識

私自身も商いを生業として生活し、JC活動を行うことができています。メンバーも、経営者やサラリーマン、ひいては働く家族を支える者など形は様々ですが、あらゆるメンバーが商いと無縁ではありません。

そして、「ひと」と「ひと」が行きかう場、「ひと」が集まる場、地元への愛着など、地域コミュニティの基は、地域の商いと

共にあると言っても過言ではありません。

しかし、大型複合商業施設の台頭や、ネットショッピングの発展により、個人店舗では経営の維持にあたり、企業努力の範囲を超えた苦境があります。何代にもわたって続けてきた商いを、経営難・跡継ぎ問題等、苦渋の決断で閉店に追い込まれる会社も少なくありません。結果、「ひと」と「ひと」が行きかう場が失われつつあることに、危機感を感じる必要があります。その要因の一つとして、そこに住む市民も地元意識が薄れ、地元の商店街や行事から足が遠のいている事実があります。お祭りや地域行事に、我々だからこそ出来るやり方で積極的に携わり、地域の商いの活性化に尽力することが必須です。地元で普段から「ひと」と「ひと」が行きかい、挨拶・笑顔が飛び交う顔見知りがある商店街があると、有事の際の安心感・情報量など効果が絶大です。

行政でもなく市民でもない、我々団体がフットワークよく主導権をとることで、団体の役割・行政の役割・関わる市民が三位一体となり、まちという名の地域コミュニティを復活させると確信します。

## ■ 「ひと」として誇れる人財の育成

道徳・教養が備わったリーダーとして我々が行う日々のあらゆる場面での活動こそが、行政への影響力、地域への還元、まちの活性化などを先導することに繋がると考えます。地域を先導できる徳のあるリーダーの育成・輩出が千葉青年会議所としての責務であります。メンバーそれぞれが高い意識を持ってこの団体に所属し、活動した経験や学びを得ることで、普段から崇高な意識のもと行動することが出来るようになり、卒業した後のメンバー自身の人生にも多大な影響を与えることを確信します。

## ■ 地域交流ネットワークと感謝

千葉青年会議所が、地域に魅力ある運動を発信し続けるためにも我々と同じように「まちをよくする活動をしている諸団体」「行政」「自治体」「民間企業」との交流をより一層強化する必要があります。様々な団体と意見交換をすることで、地域コミュニティを活性化させ、千葉の発展につながると考えます。

また、メンバーがJC活動ができるという事は、その前段に家族・職場などの理解・協力があることを忘れてはなりません。家庭や職場に個々の成長を持ち帰って還元するのみならず、感謝を表すことが必要です。メンバーのJC活動に対する周囲の理解力の高まりが、JC活動の質の向上につながります。

## ■ 自己研鑽からなる組織強化

千葉青年会議所メンバーが、広い視野を身に付け自己を磨くために国際青年会議所、公益社団法人日本青年会議所、関東地区協議会、千葉ブロック協議会の様々な事業・ファンクションに参加できる機会を提供します。そして、友好JC、姉妹JCのメンバーを含め多くの人と交流する場を設け、その一つ一つの出会いを大切にすメンバー意識を醸成します。さらに多くのメンバーが参加することで、メンバー全体の意識を高め、結果としてLOMの強化となります。

## ■ むすびに

青年会議所の活動・運動に参加しているメンバーが、50歳になっても、70歳になっても、そこに参加できたこと、一緒に汗水たらしたメンバーたち、自分自身の活動を、いつまでも誇れる団体であってほしい。自分達自身が誇れるもの、自分のプライドが、千葉青年会議所のプライドになり、そこに本気で取り組んだことは、何ものにも代え難い、人生の中での貴重な経験のひとつであってほしい。せつかく何かの縁でこの団体に所属し、何かの縁で同じ時代に同じ団体に活動出来ている奇跡を無駄にしてほしくない。知識も財力も、とても大きく大事な武器です。けれども経験も人脈も同じくらい、私

達の大きな力になります。

全ての起こりうることは、偶然ではなく必然です。全ての事柄を、自分自身に活かしてほしい。どんな逆境にも、挫けずに信念を持って進んだ道は明るいはずです。自分の成功・幸せが、大切な人にとっても、そうであってほしい。理想と現実の難しさはわかっています。しかし信念をもって理想を追わない者には、なにも起こりません。我々が行おうとしていることは小さな一歩かもしれませんが、私達自身の幸せ、愛する人の幸せ、その小さな幸せのひとつひとつの積み重ねが、「ひと」「まち」「国」「世界」を、幸福にすることを信じて、メンバー同士手と手を取り合い、明るい豊かな社会の実現に向けて共に邁進していきましょう。